

(個人用)

行政視察等報告書 (個人用)

令和4年 10月 16日

知立市議会議長 中野 智基 様

報告者	神谷定雄
日時	令和4年10月13日・14日
視察(研修)場所	出島メッセ長崎
目的	第84回 全国都市問題会議
<p>【概要】 【全国都市問題会議に参加】</p> <p>13日は、第84回全国都市問題会議@出島メッセ長崎に参加しました。 会場は、参加者で長蛇の列でした。 参加者は、全国の市区町村の首長、議員、行政職員などで2081名。参加者が一覧となった冊子をもらいました。 朝9時30分から17時まで、お昼休憩を挟み、基調講演、主報告、一般報告の5人の登壇者の講演を拝聴しました。 冒頭、株式会社ジャパネットホールディングス代表取締役社長兼CEO 高田旭人氏の基調講演がありました。 長崎を拠点とするジャパネットは、「民間主導の地域創生の重要性」として、行政と民間の役割の違いをお互いに補いながら、長崎を盛り上げたいとの思いで、地域創生に取り組んでいます。 現在は、『長崎スタジアム』のオープンに向けて、プロジェクトが進行中です。 その他、開催地の長崎市長、山形市長の報告もありました。 会場となった出島メッセ長崎は、2023年、先進国首脳会議(G7サミット)保健大臣会合の開催会場となったことが、報道されていました。 長崎駅は新幹線が開通したばかり、NHKの朝ドラでは、五島列島がロケ地となっており、長崎県が注目されています。 今日の会議の最後には、鶴鳴学園・長崎女子高校による《蛇踊り》が披露されました。 14日は『パネルディスカッション』があります。</p>	

【所感、知立市政への反映に向けた課題等】



出島メッセ長崎



【研修1日目】

個性を活かして「選ばれる」まちづくり ~何度も訪れたい場所になるため

に~と言うテーマで始まった都市問題会議。

- 1 はじめに
 - 2 継続的・定期的に訪れてもらうことの意義
 - 3 「何度も訪れたい」場所になるために
 - 4 おわりに
- というプログラムで進行されました。

初めに、日本は、2000年代より人口減少社会となった。少子高齢化、労働人口の減少、地域経済の衰退など、日本社会は様々な課題に直面している。その課題は具体的には地域によって異なるが、将来にわたって持続可能な都市となるためには、その地域に一定の密度での人口が維持されなければならない。各自治体は、人口の量的な維持・拡大を念頭に置きながら、様々な分野において、直面する諸課題に取り組んでいる。そのように考えると、現在は、大都市への集中という従来の流れから、働き方・住まい方の多様性を含む「包括的な意味での『分散型』社会」に向かう流れへの転換点にさしかかっているとみえる。そのような大きな時代の転換を捉え、各都市において、将来的に移住・定住先としての選択肢になることを視野に入れながら、人々が訪れ、集まり、交流する場所として選ばれるような個性を活かした魅力ある地域づくりについて考えることが、今求められているのではないか。

では、その前提に立つとき、魅力ある地域づくりのために重要な要素は何であろうか。本来、都市は、不特定多数の人が集う場である。都市では、暮らしの便宜を図るために、商業や様々なサービスが発達することから、いっそう人が集まり、交流が促されてきた。地域外から都市を訪れる人々は、客観性や自由、普遍性を都市にもたらす源である。例えば、出島を通して古くから国際的に開かれていた長崎は、江戸時代には貿易、昭和の時代には観光など、時代によって交流の形を変えながらも、異なる価値観・文化をもって不特定多数の人が流動的に出入りし集積することで、新たな文化や産業を創出し、独特の個性を獲得してきた歴史をもつ。時代の変化とともに、都市間交通手段の充実、モビリティの革新などによって、交流の機会はますます増加して来ている。同時に、地域外から訪れる目的の交流の中身が大きく変わって行くことが予想される。そのような状況の中、都市が持続的に発展して行くためには、広い視野で人と地域のさまざまな関わり方を実現することが必要である。

このようななか、新型コロナウイルス感染症のパンデミックが発生し、世界中に大きな打撃を与えた。感染が拡大した時期には、人の移動自体を自粛することが要請され、人と「会う」・「集まる」という当たり前の日常が奪われてしまった。結果、経済活動の制限や個人消費の低迷などに伴

う、様々な深刻な影響がもたらされた。交流の機会はますます増加しその一方で、当たり前の日々が形を変えたことにより、社会のあり方や人々の価値観に変化の兆しがみられた。オンライン会議やテレワークの普及、勤労世代における地方移住の動きなど、働き方・住まい方の変イヒが、その一例である。個人が、自由度の高い形下多様な働き方や住まい方を選択していくアフターコロナの社会では、「包括的な意味での『分散型』社会」へてきている。同時に、地域外から訪れる目的や交流の中身も大きく変わっていくことが予想される。そのような状況のなか、都市が持続的に発展していくためには、広い視野で人と地域の様々な関わり方を実現していくことが必要であり、地理的条件や地域資源など、様々な都市の個性を活かした魅力あるまちづくりに取り組み、地域外の人が継続的・定期的に訪れる機会を創出するための方策を検討することが重要である。

(民間主導の地域創生の重要性 高田 旭人)

ジャパネットホールディングスの社長 高田旭人氏の講演。父が65歳、高田氏が35歳になったとき、社長を引き継いだといいます。

講演では通信販売事業に並ぶもう一つの柱である「スポーツ・地域創生」事業について語りました。

長崎のプロサッカーチームの運営を100%引き受けたことをきっかけに「地域を盛り上げていきたい」という思いを強く持ち、今、2024年開業を目指し、長崎初のプロバスケットチーム「長崎ヴェルカ」を立ち上げ、長崎駅前にスタジアムや商業施設等をつくる「長崎スタジアムシティプロジェクト」に取り組んでいるといいます。

(長崎市の田上市長の講演)

わがまちの「価値」について語られました。「価値」を見つけ、「価値」に気づき、価値を磨く、そして新たな「価値」を生み出すこと。「観光とは？」と聞くと、観光産業が儲けるというイメージが市民にもあった。本来観光とは「住む人にも、訪れる人にも喜ばれるもの」でなくてはならないと語る。「誰かが我慢するまちづくりであってはならない」と、まちづくりの基本を最初に語られたことに感銘しました。そして、これから被爆者が居なくなる時代を迎える。そのためにやっておかなくてはならないことがある。核兵器廃絶であると。

市の職員は、いつも「いい仕事をやりたい」「もっとこうしたい」と思っているが、予算の面、これまでのやり方、法律、様々な問題の中で悶々と仕事をしている。そこに専門官を入れることで、これまでの「できない」を

「できる」に変える取り組みを実施しているという。それは、全国的にもあまり例がないという「景観専門監制度」の導入です。10年前に九州大学で仕事をし、その後一般社団法人地域力創造デザインセンターで働く専門監に着任していただき、職員の「こうしたい」という部分の風穴を開けるアドバイスで、次々といいアイデアが出ているという。とてもいい話に刺激を受けました。

山形県市 「健康医療先進都市」 佐藤 孝弘

- 1 医療先進については、市立病院済生館の充実と山形大学医学部と連携
- 2 健康については、健康寿命延伸が最大の課題

「交流の産業化」を支える景観まちづくり 高尾 忠志

【2日目パネルディスカッション】

パネルディスカッション：個性を活かして「選ばれる」まちづくり～何度も訪れたい場所になるために～

【コーディネーター】東京都立大学法学部教授 大杉 覚氏

【パネリスト】

ゆとり研究所所長 野口智子氏

- ・ 雲仙人プロジェクト

山梨大学生命環境学部教授 田中 敦氏

- ・ ワークーション

NPO 法人長崎コンプラドール理事長 桐野耕一氏

- ・ まち歩き「長崎さるく」

飛騨市長 都竹淳也氏

- ・ 飛騨市ファンクラブ：ふるさと納税

伊丹市長 藤原保幸氏

- ・ 日本遺産「清酒発祥の地」
- ・ シビックプライド「わがまちを知り、誇りに思う」



【所感】10月13日・14日と『個性を活かして「選ばれる」まちづくり ~何度も訪れたい場所になるために』のテーマのもと第84回全国都市問題会議が、デジマメッセで開催され参加してきました。

会議初日は各界の第一人者の方々の講演や各地の首長からの報告、二日目はパネルディスカッションと両日を通して地域活性化を追求する会議となりました。

発信することから都市の魅力を高め、また公共交通網の整備・ICTの活用などにより地域間・地域内の交流人口の拡大と活性化を図ることが重要との示唆に富んだ指摘は、まさに知立市が抱える課題とも重なり、今後の市政に活かして参りたいと思いました。

※報告書は視察（研修）場所ごとに作成してください。

報告書は視察（研修）終了後1週間以内に提出してください。